

## ユニバーサルデザインの視点を 生かした教室・授業って…

ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。こうしたユニバーサルデザインは、学級づくり、授業づくりにおいても大切な視点となります。ユニバーサルデザインの取組として「視覚支援・見通し・構造化」などの『ハード面』と、「教師のほめ方・叱り方・教師の立ち振る舞い・分かりやすい指示の出し方・信頼される教師になること」などの『ソフト面』は、車の両輪として欠かすことはできません。（みんなに分かりやすい授業作りのポイント 道教委 H26）

### 具体的には

#### ◇教室（学習環境）のユニバーサルデザイン化

- ・学習に集中できるように、黒板周りの掲示物や装飾は必要な物だけにする。（不要な刺激を減らす）
- ・一日の流れや授業の流れを視覚的に掲示する。（視覚支援）

#### ◇伝わりやすい授業

- ・学習内容や課題の明確化。
- ・子供に分かりやすい言葉でゆっくりと伝える。
- ・ポイントを簡潔に板書する。
- ・板書の時間を確保し、確認してから次に進む。

#### ◇ルールの設定

- ・学級内のルールや約束を分かりやすい言葉で明文化し掲示する。
- ・ルールを分かりやすい所に掲示する。



上記の例のほかにも、学級の実態に応じて様々な取り組みがあります。一部の生徒のための支援と考えると負担感も感じるかもしれませんが、こういった取り組み（準備）をすることで、学級のすべての児童生徒が生活や学習がしやすくなると考えれば、取り組みやすくなるかもしれませんね。

ユニバーサルデザインを教室で取り組もうとすることは、何か新しいことを始めるのかなと抵抗感があるかもしれませんが、これらの多くは、実は先輩教師たちが、何十年も「みんなにわかる授業づくり」や「落ちこぼしを作らない授業」として取り組んできた実践と大きく変わるものではありません。こういった授業スキルの上に障がい理解の知識を加えていけば、きっと課題解決の道が開けてくるのではないのでしょうか。

授業や生徒の指導のことでお悩みがあれば、支援学校へお問い合わせください。一緒に考えていきましょう。

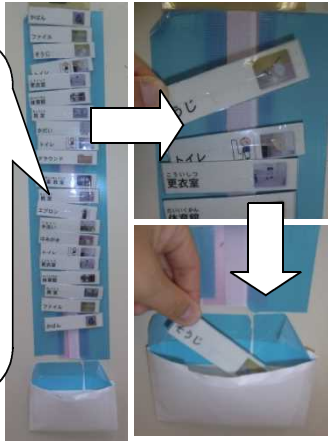


# 子どもの「できる」を叶える「教材・教具」

子どもたちが学校生活の中で苦手意識を持ちやすい様々な場面。でも、ちょっとした工夫が施された教材・教具を使うことによって苦手なフォローすることができます。今回は本校で使われている「教材・教具」をご紹介します。



**「1日のスケジュール表」**  
活動に見通しが持てなく不安になってしまう傾向がある子どもに、スケジュール表を使用しています。次の活動がわかることで見通しを持ち、落ち着いて活動参加ができるようになっています。



**「朝の会マニュアル」**  
朝の会の司会が苦手なお子さんも、これがあれば大丈夫。1枚ずつめくっていけば、司会者も学級のみんなも何をやるのか一目瞭然。(マニュアルの視覚化)



**「玉ねぎ選別」** 農作業で収穫した玉ねぎを規格別に選別することができます。穴に通る、通らないで判断できるため、子どもたちは自信を持って作業に取り組むことができます。

**「足型」** 立ち位置を分かりやすくすることで並んだり発表したりする場所が明確になります。銀行やレジの並ぶ位置にも使われていることがあります。色分けや線と組み合わせることで、進む位置なども示せます。



**「駐車場の表示」** 「三輪車をきちんと片付けましょう」という言葉だけでなく、どこに置くのかを具体的に視覚化することで、小さなお子さんでもこのとおり。(場の構造化)

**<お問い合わせ先>**  
電話・FAX／0157-61-0047 E-mail／kitamishien-z1@hokkaido-c.ed.jp  
担当／教頭（高橋） 相談支援部（佐藤未、太田、佐々木）

